

デンソー山岳部 06年夏山合宿報告書

2006/08/12 - 08/14

南アルプス(北岳・間ノ岳・農鳥岳)



14日西農鳥岳山頂にてご来光を拝む

メンバー(計10名)

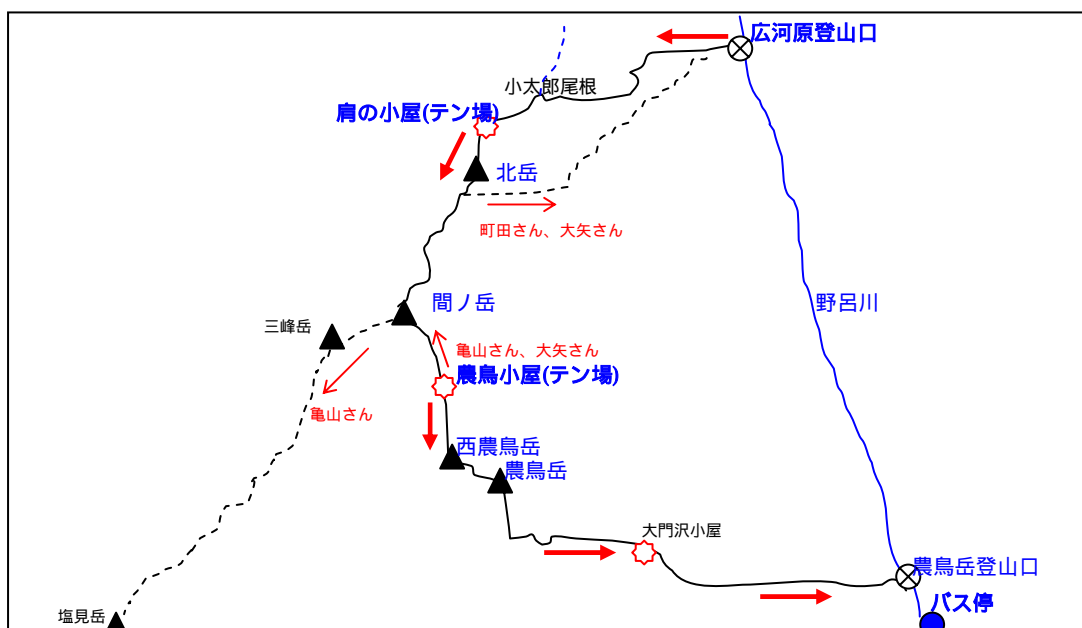
山田 明(CL)	長島 博美(SL・会計)	藤田 健治、	亀山 誠、	竹内 幹雄(気象)
金子 清(涉外)	大矢 康裕	町田 修	松中 真理子(食糧)	吉川 浩行(装備・記録)

目的と山域

新人の育成、親睦

南アルプス 北岳～間ノ岳～農鳥岳

概念図



8月11日(金) 快晴

19:30	N1 駐車場 発(先発組)	23:30	中央道 諏訪 SA
20:45	長島さんピックアップ	24:35	道の駅
22:00	中央道 恵那 SA(後発組と合流)	25:40	就寝

8月12日(土) 曇り時々晴れ

3:45	起床	7:30	1890m付近で一本
4:10	道の駅 発	9:00	白根御池小屋 着
4:40	市営駐車場 着	10:10	2500m付近で一本
5:10	芦安バス停 発	11:15	樹林帯抜けた付近で一本
6:05	広河原バス停 着	12:40	北岳肩の小屋 着
6:30	登山口(野呂川橋) 通過	16:30	夕食

☆☆ ログ ☆☆

深夜に到着した道の駅で、稲光と雷鳴を子守唄に眠りにつくも、時折通り過ぎるトラックの騒音で目を覚ます。

時間は 3:45 ぴったり。始発のバスに乗るためだった。荷物の撤収も手際よく、4:10 には出発。芦安バス停に向けて GO!(皆、夜通し走りつめ、2 時間余りしか仮眠を取っていないのは嘘のように元気だ) 4:40 市営駐車場着、5:10 の始発バスを GET。3 台連なるバスは広河原に向け、約 1H の後、目的の北岳が間近に迫ってくる。

広河原バス停で身支度もそこそこに、歩き始める。6:30 登山口の野呂川橋を通過する頃には小雨がぱらつくも、約 19 kg のザックも苦にならない位、初合宿にわくわくしている自分を冷却してくれてるようだ。

広河原山荘を過ぎると、間もなく大樺沢二俣、八本歯のコル方面分岐を過ぎ、北岳を目指すパーティもめっきり少なくなってきた。思った以上に緑豊かで静かな山行となった。樹林帯の急登を梯子を使って何本か過ぎ、1890m 付近で一本。そうこうしているうちに視界が開け、背後に鳳凰三山が見えてくると当初予定のテン場である白根御池小屋に到着。時間はまだ 9:00。水場で補給を済ませ、肩の小屋を目指すことになった。

天候はここにきて回復し、地藏岳、観音岳の山並みがくっきりと見渡せるようになった。標高 2236m にある白根御池を過ぎると草すべりの急登に入り強烈な日差しが降りだすと、先程補給した水分を出し切るかの如くとなったが、シナノキンバイなどの高山植物の花畑が広がり、皆の目を楽しませてくれた。間もなくすると「あと少し」の標識が出るもゴールが見えず、樹林帯を抜け見晴らしがよくなる辺りで一本。しかし地図では小太郎尾根の分岐が近い。天候が怪しくなってきたので、休憩もそこそこに歩を進める。間もなくすると小太郎尾根を過ぎ、12:40 北岳肩の小屋に到着。テン場ではそそくさとテントを設営し、終える頃には雨足がきつくなり、雷も発生し全員胸を撫で下ろす。15:00 頃になると雨も上がり、視界が開け、全員北岳の景色に見入っていた。16:30 夕食、20:00 就寝。



(感想)

今回の合宿では 19 kg のザックの重みと、いきなりの(北岳草すべりの)急登を味わい、先が思いやられましたが、終わってみれば天候にも恵まれ、南アルプスの“良いとこ取り”をしたような気がします。目的である新人の育成と言う観点からは、先輩方ご配慮の下、早朝暗がりでのトップなど貴重な役割(経験)をさせていただきました。今後も気を引き締め以降の山行に望みたく、諸先輩方には引き続きのご指導をお願いします。(吉川 記)

8月13日(日) 霧のち晴れ

3:00	起床	8:10	中白根 着(3,052m)
4:50	肩の小屋 テン場出発	8:30	中白根 発
5:30	北岳山頂 着(3,192.4m)	9:30	間ノ岳 着
6:05	北岳 山頂 発	9:45	間ノ岳 発
6:30	八本歯コル分岐(ここより町田さん下山)	10:40	農鳥小屋 着
7:05	北岳山荘 着(小休止)	(11:10~12:50 亀山さん、大矢さん農鳥岳往復)	
7:35	北岳山荘 発	19:00	就寝

☆☆ ログ ☆☆

3:00起床、テントの外は、ガスで真っ白。山頂ではガスが晴れることを祈りながらテン場を出発した。ガスのため、先がよく見えない。とりあえず目の前にあるピークに立ってみると、またもや同じようなピークが現れる。本物のピークを待ちわびるが、そう簡単には姿を現してくれない。出発から40分、遂に本物のピークに立った。北岳山頂はガスに覆われ何も見えなかったが、10名全員で第2の高峰に立てたことを喜び、強く握手を交した。空が明るいのでガスが切れるのを待っていたが、気温5の世界は寒い。待ちきれず、北岳山荘へ向かった。途中、八本歯コルへの分岐で本日下山する町田さんを見送り、そのまま下ると、ガスが切れてきた。周りの山々が次第に見えてくる。北岳山荘では富士山が見える。北岳の山頂も顔を出した。

時間に余裕があったので、山荘からは高山植物を愛でながら稜線歩きを楽しんだ。時折、振り返っては北岳の雄大な姿に見とれ、足も止まる。30分ほどで、中白根ピークに到着。右手に間ノ岳、左手には北岳。何とも素晴らしい光景。中白根を下ると、今度は間ノ岳への登り。間ノ岳へは1時間で到着、4番目の高峰に立つ。山頂付近では、イワギキョウ、チングルマ、ハクサンイチゲなどの花の名前を教わった。間ノ岳を過ぎると、農鳥小屋までの急な下りが待っていた。目の前には農鳥岳がそびえ立つ。迫力ある景観の中、慎重に下り、10:40に農鳥小屋到着。本日の行程、終了。その後は、青空の下、間ノ岳と農鳥岳を見上げながらの歓談&昼寝。亀山さんと大矢さんは次の日、別行動となるため、農鳥岳へと向かった。2時間40分のコースを、なんと1時間40分で戻ってきた。お二人の健脚ぶりに拍手喝采。その後も話は尽きなかったが、次の日も早いため19:00には就寝した。



(感想)

初めての南アルプスは、急斜面の登り/下りが多く、慎重になることもありましたが、色とりどりの高山植物と素晴らしい山々の景色で私達を楽しませてくれました。トップを歩くことも良い経験となりました。まだまだ初心者で先輩方から教わることも多いですが、少しずつ身につけていければと思います。(松中 記)

8月14日(月) 快晴

2:00	起床	6:35	大門沢 分岐
3:30	テント撤収後出発	8:50	大門沢小屋にて小休止
4:10	VIEW ポイントにて小休止	9:20	大門沢 発
4:45	西農鳥岳 着 (5:00 モルゲンロート&ご来光)	11:20	登山口@発電所 着
5:10	西農鳥岳 発	12:00	温泉着 休憩
5:45	農鳥岳 着	13:30	温泉発 帰途に着く
6:00	農鳥岳 発		

☆☆ ログ ☆☆

2AM 起床。月が出ているが美しい星空である。朝食、テント撤収後、亀山さん・大矢さんと別れ出発。仲間との別れは彼らの行く先を思うと勇ましくもあり、また寂しくもある。西農鳥に着いた時は、まさにモルゲンロート。しばらくして赤く丸い太陽が顔を出した。左手に間ノ岳、北岳、鳳凰三山、うっすら八ヶ岳。右手に富士山が農鳥岳の向こうに鎮座し、私たちの背後には塩見岳。しばし自然の美しさに見とれ、いざ農鳥岳へ。農鳥岳山頂では、地図を片手に3日間の行程を振り返る。下山後の温泉が待ち遠しい。大門沢分岐からは、下るほどに気温は上昇した。両側に広がる高山植物は、疲れた体と心を和ませる。ひたすら降りる。体が暑さに涼を求めずに入られなくなった頃、ようやく大門沢小屋に辿り着く。小休止。奈良田までは細かく登ったり下ったりを繰り返す長い下りだった。下山後は温泉。今回の夏合宿は天候と良いメンバーに恵まれ、コースタイムを大きく短縮、計画書より1日早く全員無事に無傷で帰途に着いた。

感想(4点ほど)

- ・南アルプスのゴールデンコースだが、それほど混んでいなくて良かった。
- ・早起きは夏の雨を回避し、メンバーとの親睦を深める午後のひと時を作る。
- ・地蔵のオベリスクが終始見てとれ、半年前の冬合宿@鳳凰三山を懐かしく思った。(長島 記)



【リーダー所見】

今回、初めて合宿のリーダを経験しましたが、無事に合宿を終えることが出来て良かったと思います。日程は当初、3泊4日の計画でしたが、先輩方の助言により、1日早い2泊3日で終わることが出来ました。改めて、計画立案力の未熟さを痛感しましたが、今後のために良い経験になったと思います。また、事前準備として、メンバー全員が個人山行やトレーニングによる体力強化を実践しており、また、平地合宿による装備、食料等の検討を計画的に行っていたため、トラブルもなく、予定通りの行動が出来たのは良かったと思います。行動については、合宿の目的が新人育成のため、若手にトップを歩いてもらいました。結果、ルート取り、読図、ペース配分について、自分で考えて行動することを実践できたので、成果が得られたと思います。行動中は好天に恵まれ、安全登山で夏山を満喫することが出来ました。

【大矢さん行動記録】

8/12

昨年の北海道トムラウシ山に引続き、今年の夏も会社の山岳部の合宿に参加。今回は、南アルプスの北岳から農鳥岳への縦走である。

私には、99年の塩見岳以来、7年ぶりの南アルプス、北岳に至っては、学生時代の84年の聖岳～北岳の縦走以来、なんと22年ぶり3回目の登頂となる。すぐ隣の甲斐駒ヶ岳は4回登っているのに、北岳は不思議と登った回数が少ない。

前夜の19時半に刈谷を出発、一宮で長島さんをピックアップしてから、中央自動車道に入り、双葉JCTから白根ICで下りる。高速は、名神高速の小牧JCT付近と一宮周辺が渋滞していた他は、中央自動車道の流れは順調で、到着が予定より少し遅れた程度。

下りてすぐの道の駅『しらね』にて仮眠後、芦安市営駐車場へ向う。当初の計画では7:40のバスに乗り、初日は白根お池の予定であったが、朝一の5:10のバスに乗り、肩ノ小屋まで行くことに予定を変更する。1時間で広河原に着くと、既に沢山の登山者でにぎわっている。一部の人々は、ここからマイクロバスに乗り換えて、北沢峠に向っていた。

6時半、我々は、北岳に向けて出発。天気は曇、上空に寒気が入っているので、午後から雷が心配だ。

野呂川に掛かる吊橋を渡ると、大樺沢から八本歯コル方面の稜線が見える。大樺沢は事前情報通り、かなり雪渓が残っている。

広河原山荘の横を通り、大樺沢沿いに登っていく。30分ほどで、そのまま大樺沢を詰めるルートと別れ、白根お池に向う急登に入る。寝不足気味のためか、パーティーの歩みは重い、ヒメシャジンの青紫の可憐な花が心を慰める。9時丁度、白根お池小屋に着いた。北岳頂上方面はガスっているが、八本歯コルが間近に迫り、正面には鳳凰三山が見えている。段々晴れてきて、暑い。小屋の横には、白根御池という小さな池がある。ここからは、通称『草スベリ』というお花畑の急斜面をジグザグに登っていく。

キク科の黄色い花(タカネコウリンカ?)が沢山咲いており、タカネナデシコ、ハクサンフウロのピンクの花、毒々しい紫のキタダケトリカブト、などの花が目を楽しませる。頂上方面も晴れてきたが、北岳バットレスを横から見るのも、なかなかの迫力だ。右俣コース分岐からは、富士山、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳まで見え出した。12時半過ぎに北岳肩ノ小屋に到着。テントを張って、ほどなくすると心配したとおり雷が鳴り出し、物凄い雷雨となった。早めに到着できてラッキーと、思わず一同、胸を撫で下ろす。下界から担ぎ上げたビールで、明日への健闘を誓って乾杯。

夕方には雨も上がって、再び北岳が姿を現した。正面に地蔵岳のシンボルのオベリスクが、くっきりと見える。甲斐駒ヶ岳から鋸岳への稜線もカッコいい。皆眠いので、20時に就寝。私は車を運転した疲れか、一日中眠くて仕方がなかったので、ぐっすりと眠ることができた。

8/13

3時起床。ガスで何も見えない。本日の行動予定は、北岳、間ノ岳を越えて農鳥小屋まで。ガスの中、北岳頂上を目指して出発。

1ピッチ弱で、標高日本第2位の北岳山頂に到着、10名のメンバーと熱い握手を交す。周りは何も見えないが、とても幸せな気分だ。気温は5で、半袖Tシャツでは少し寒い、やせ我慢。相変わらずガスっているが、頭上が明るくなってきて、ガスが晴れそうな気配がある。頂上でゆっくりした後、北岳山荘へ下りる。途中の八本歯コルへの分岐にて、本山下山する町田さんと別れる。ガスの一部が晴れてきて、下の方に北岳山荘が見える。北岳山荘に着くと、さすがに人が多い。次第にガスが晴れて、遂に富士山が姿を現した。これから向う中白峰、間ノ岳も、青空の下に続く3000m級の稜線上に聳えている。

この辺りは高山植物の宝庫だ。今回は時期が遅くて枯れているものが多かったが純白の花を咲かせるハクサンイチゲ、青紫のイワギキョウ、ピンクのタカネシシオガマ、黄色のミヤマダイコンソウ、など色とりどりで楽しい。中白峰を登る途中から振り返る北岳は、さすが南アルプス連峰の盟主としてふさわしい威容で大変素晴らしい。私が翌日の下山に使う予定である北岳のトラバースルートが見えているが、八本歯コルに至るルートは北岳南面に付けられており、かなり急峻な斜面のトラバースのようだ。

翌日、実際通過するとこの観察は的中して、高度感あふれる(！？)凄いルートであった。

間ノ岳に近づくと、ガスの中に入ってしまう何も見えなくなった。ふと前方を見上げると、雷鳥がいる。目をこらすと、一匹だけでなく、2匹の子供を従えており、とても可愛らしい。北アルプスでは何度も雷鳥を見たことがあるが、南アルプスでは初めてのことだ。間ノ岳ピークに着くと、丁度うまいことにガスが晴れた。ここからの北岳もカッコいい。これで、今年は日本のNo. 1、2、4を同じ年の夏に登ったことになる。間ノ岳を後にして、本日のキャンプ地である農鳥小屋へ。

間ノ岳の下りは結構急で、明日また登り返すことを思うと、めげるどころか逆にファイトが湧いてくる。

農鳥小屋に着いてから、翌日大門沢へは行かない私と亀山さんの2人で、空荷で農鳥岳ピストンに向う。亀山さんから、コースタイム1時間半に対して、『目標タイム1時間』と指示が出る。そんなに格別に急ぐつもりもないが、休むことなく着実に足を進める。農鳥岳の登りの途中から振り返る間ノ岳の姿も、どっしりと落ち着いていて実にいい。最高点の西農鳥岳から三角点のある農鳥岳の間が、ちょっとした岩場があり重荷だと嫌らしいが、空荷なので何ということもなく通過する。目標より5分早く着いた農鳥岳頂上からは、今まで見えなかった南部の、塩見岳、荒川三山が見える。間ノ岳までの稜線に比べ、農鳥岳まで足を延ばす人は少ないのか、静かな頂上であった。ほどなく農鳥小屋に引き返し、雲湧き上がる農鳥岳の姿を肴に、贅沢な夏のひと時をメンバーと語らいながら過ごす。

8/14

いよいよ私にとって最終日。本隊は農鳥岳で、私は間ノ岳にて、それぞれご来光を拝むべく、2時に起床。天気は快晴、冬の星座オリオンが天高く輝く。3時半、本隊と互いの健闘を祈り、固い握手をして別れる。10分ほど登ったところで、熊ノ平分岐。ここで更に南アルプス南部を一人目指す亀山さんとも別れ、単身、間ノ岳に向う。ルートは、紛らわしい踏み跡が多く、暗いと大変分かりにくい。何度かペンキ印を見失い、その度に元の道に引返す。一箇所、どうしてもペンキ印が見つからず、3回往復したところがあった。一人が心細くなるのは、こんな時だ。間ノ岳頂上に近づくとともに次第に明るくなってきて、もう道を迷うこともなくなった。『足が速いか、太陽が昇るのが早いかな』、一歩一歩着実に踏みしめ、ピークでのご来光を目指す。

傾斜が緩やかになると、一頑張りの間ノ岳。迷いながらも、農鳥小屋から1時間10分で登ってしまい、日の出まで十分に時間がある。本日一番乗りの、誰もいないピークで360°の贅沢な眺望を楽しみながら、ご来光を待つ。後から登ってくるヘッドライトが2つあったが、一向に近づいてくる気配がない。多分、私と同じように暗闇でのルート探しに苦戦しているのだろう。

ご来光を待っている間に上半身Tシャツ1枚の身体が冷え切ってしまう、毛のシャツと合羽を着込む。持参の温度計は3 を示している。寒いはずだ。間ノ岳のご来光独り占めか、と思っていたら、5時少し前に北岳山荘から単独行の人が、息を切らして登ってきて、間に合ったと喜んでいた。5時5分頃、鳳凰三山の少し右から日が昇る。富士山ではご来光を逃したが、日本四位の間ノ岳で無事拝むことができ、とても幸せ、感謝感謝。2週間前に登った富士山は勿論のこと、農鳥岳、荒川三山、赤石岳、聖岳、塩見岳、仙丈岳、鋸岳、甲斐駒ヶ岳、北岳、鳳凰三山、と続く山並みは朝日を受けて輝いている。名残惜しみつつ、間ノ岳を後にして、北

岳山荘へ向う。ここから、一気に人が増える。後から後から登ってくる人たちとすれ違う。6:10に着いた北岳山荘は、まだこれから出発という人も多い。下から登ってくる人とのハシゴの順番待ちが予想される八本歯コル付近の通過を考えると、混雑する前に出発できたことは幸いだった。

八本歯コルへは最短ルートであるトラバースルートを使ったが、これが思ったより遥かに難所。平均60°ぐらいの急斜面につけられたルートは、足元は奈落の底が見えるようで、一步踏み外すとお陀仏の、手摺付きのハシゴの連続。ハシゴとハシゴの間の斜面には、可憐な高山植物が咲いているのだが、ゆっくり楽しむ余裕がない。高度感、大キレット、不帰ノ剣とも勝るとも劣らないスリルで誠に肝が冷える。よくこんなところへ来るなと思ってしまった中高年の人たちを抜いて、八本歯のコルへ。



ここからの下りも、ハシゴは続く。北岳バットレスを見ながら、スリル満点の下り。下から登ってくる人とはまだ出会わない。30分程下って、ハシゴも終り、ジグザグの斜面の下りに入る頃から、予想通り次から次へと登ってくる登山者とすれ違い、時間をロスする。大樺沢は雪渓が残っているが、左岸にしっかりした夏道がでており、雪渓を歩くことはない。登ってくる登山者とのすれ違いに消耗して、ようやく広河原山荘に辿り着くと、思わず一本。涼しげな野呂川の流れと正面の高嶺・赤雑沢ノ頭の稜線を肴に、生ビールを乾いた喉に流し込む。

9:55 広河原バス停着、10時半発のバスに乗り込むも、つい寝過ごしてしまい、気付いた頃には芦安を10分くらい通り過ぎていた。

反対方向のバスに拾ってもらい、市営駐車場への分岐で下してもらった。汗をかきかき約10分ぐらい林道を歩き、やっとのことで芦安市営駐車場に辿り着いた。風呂で充実した3日間の垢を流し、帰途に着く。



会計報告

区分	明細	内訳	金額(円)
収入	メンバーより	10,000 × 10名	100,000
差し入れ	(OB) 不破 孝浩さんから	3,000	3,000
収入合計			103,000
支出	食糧		22,152
	ビール代(11日ｺﾝﾍﾞﾝ)	2,542	2,542
	ガソリン代	7,334 + 10,043	17,377
	高速代	6,700 + 4,400	11,100
	テン場代	5,000 + 4,500	9,500
	バス代(12日)	1,000 × 10名	10,000
	バス代(14日)	1,750 × 7名	12,250
	水代	100 × 5L	500
	温泉代	500 × 7名	3,500
	JR(身延線)交通費	3,310 × 7名	23,170
支出合計			112,091
残金			-9,091
追徴		900 × 10名	9,000
	部費から補填		91
残金			0

以上